

スイス人監督が描くドキュメンタリー映画



太陽が落ちた日

上映会

（映画内容） 原爆投下時、若き内科医であった監督（スイス在住）の祖父は、8月6日その日から広島赤十字病院で被爆者を治療した。祖父はそこで見たこと、体験したことを生涯を通じて決して語ることはなかった。2010年、その祖父を映画製作の出発点とし、足跡を辿っていくうちに当時同じような体験をした看護師と医師に巡り会い、だんだんと祖父に近づいていく。そして2011年東日本大震災により福島原発事故が起きた。多くの人が知らない広島・長崎の原爆による内部被爆の話だけではなく、福島原発や日本の将来にも関わることを真剣に伝えようとするドキュメンタリー映画である。

（監督）ドメーニグ・アヤ

1972年日本で生まれ4歳からスイスで育つ。チューリヒ大学で文化人類学・映画学・日本学を、チューリヒ芸術大学で映画/ビデオを学ぶ。現在フリーランスとして、監督、カメラ、編集などで種々の映画・ビデオ制作に携わる。

（主な出演者）土井清美、内田千寿子、肥田舜太郎



☆「太陽が落ちた日」（78分）上映後、監督のドメーニグ・アヤさんにスカイプ（テレビ電話）でお話を伺うことを予定しています。

日時：平成28年7月31日（日）

13：00～15：30（12：30開場）

場所：合人社ウェンディひと・まちフラザ

（まちづくり市民交流フラザ） 北棟6階

広島市中区袋町6-36／電話（082）545-3911 マルチメディアスタジオ



定員：当日先着100名（申込不要） 参加費：1人500円（当日会場でお支払いください）

主催・問合せ：被爆体験を継承する会（電話090-7500-1107）

共催：（公財）広島市文化財団まちづくり市民交流プラザ（企業・団体との連携講座）

後援：広島市（公財）広島平和文化センター 中国新聞社

広島市男女共同参画推進センター（公財）広島県男女共同参画財団